

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

志學館大学の前身である鹿児島女子大学は、明治40（1907）年に鹿児島における女子教育の先駆者である満田ユイが鹿児島市平之町に開いた「鹿児島女子手芸伝習所」を淵源とする。昭和24（1949）年に「学校法人実践学園」となり、長年にわたる女子専門職業教育を高等教育においても展開する場として、昭和54（1979）年に鹿児島女子大学が設置された。平成11（1999）年度には、法学部の設置に合わせて男女共学となり、校名も志學館大学と改称された。

志學館大学の基本理念は、平成17（2005）年度に、学園の建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」を敷衍して、「豊かな教養に裏付けられた実践力と学ぶことへの高い志を持つ人間の育成」と定められた。志學館大学は学則第1条で、その目的を「本学は、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、学園の伝統を継承して、誠実な人から、豊かな教養、自主的・創造的な行動力を併せもつ有為な人間を育成し、もって文化の創造と社会の充実発展に寄与することを目的とする。」と定めている。

この目的を達するために、本学は、不断に教学改革を推し進めており、特に教育の質保証・質向上に積極的に取り組み、その成果は私立大学等改革総合支援事業のタイプ1に平成25年度から通算9回、令和4年度からは3年連続で採択されていることにも現れている。またICT教育の推進にも取り組み、令和6年度には「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の選定を受けている。これらは、大学全体の教育体制の充実と質の高さを反映するものであり、教員養成に必要な基本的な教育基盤が確実に備わっていることを示している。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

心理臨床学科の教育研究上の目的は、心理学及び健康科学の分野について教授研究し、職業人として社会の様々な分野で活躍できる人間の育成である。大学並びに学部でのディプロマ・ポリシー（以下、DPと言う。）に基づき、学科のDPを「心理学及び健康科学に関する実践的かつ体系的な専門知識と技能を修得し、総合的な課題解決能力を活かして、地域の発展に自主的・創造的に貢献できる能力と意識を持っている」と定めている。

本学科の特徴は、学科名に冠する「臨床」を狭義のメンタルヘルス分野に限定せず、「臨床＝実践」と広く捉える点にある。この理念のもと、学生は心理学・スポーツ科学・健康科学・健康福祉を相互に関連づけて学ぶ。本学科はこれにより、人間を科学的に理解する視点と人間力を涵養しつつ、それぞれの志向する領域で専門性を発揮できる人材の育成を目指している。

この具現化のため、5つのコース（心理臨床実践コース、スポーツ健康科学コース、学校教育心理コース、社会産業心理コース、健康保健福祉コース）を設置し、各領域での学びの深化をガイドしている。とりわけ「スポーツ健康科学コース」と「学校教育心理コース」は、各領域をバランス良く学ぶ教育を通じて、心身両面から子どもを理解し指導できる力を培い、保健体育と養護の教員養成の学習基盤として機能している。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

志學館大学の教職課程は、前身の鹿児島女子大学が昭和54年の開学と同時に、中学校一級普通免許状（国語、英語）、高等学校二級普通免許状（国語、英語）の課程認定を受けて以来、専門性の高い、実践的指導力を身に付けた教員養成を行ってきた。また、平成29年には養護教諭一種免許状の課程認定を受けている。

近年、社会状況や子どもの変化を背景に、学校教育における課題は一層複雑・多様化している。このような状況下で、社会の学校教育に対する期待はますます高まり、教員に求められる資質能力も高度化している。学校教育の成否は、教員の資質能力にも大きく依存することから、教員の資質・能力の向上や確かな素養を持った教員養成は社会的急務であり、高等教育機関として地域と共にあることを学是とする本学が尽力すべき責務でもある。

本学では、建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」に基づき、「豊かな教養と人間性」「確かな専門的知識」「創造的思考力」「主体的行動力」「社会的実践力」を身に付けた教員の養成を目指している。具体的到達像として（1）教職に対する強い情熱と使命感を持つ、（2）豊かな教養と人間性を有する、（3）確かな専門的知識と指導力を備える、（4）創造的思考力を有し総

合的人間力を兼ね備える、(5) 学び続ける向上心と主体的行動力を持って課題解決に努める、(6) 同僚、保護者、地域社会と連携・協力できる社会的実践力やコミュニケーション力を有する、を掲げ育成目標としている。本学はこれらの達成に向け、各学科と教職センターが緊密に連携し、教育プログラムの設計、履修指導、教育実習、キャリア支援に至るまで一体的に、大学全体として推進している。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

先述の通り、心理臨床学科の DP の骨子は、心理学及び健康科学に関する実践的かつ体系的な専門知識と技能を修得し、総合的な課題解決能力を活かして、地域の発展に自主的・創造的に貢献する人材の育成である。

本学科では、人間の心と体を両面から科学的に理解する事が人間力涵養の基盤をなすと捉え、教育課程に心理学・スポーツ科学・健康科学の科目を体系的に配置するとともに、健康福祉の科目も適切に設定している。こうした課程設計は、学科 DP の実現に資するだけでなく、心身両面への健康支援や社会の課題解決に必要な力を養い、教育現場で求められる保健体育教員の効果的育成にも寄与する。

本学科での保健体育教員育成の目標は、DP に示された理念を教育現場で具現化できるよう、以下の3つに整理される。

1. 心理学的知識に基づく指導力の養成

心理学的素養を備えた保健体育教員の養成を目標とし、生徒の心身の発達や自己肯定感の向上に寄与できる指導や支援の在り方を理解し、実践的に対応できる指導力を培う。

2. 心身理解に基づく健康支援能力の養成

思春期の生徒の心と体は密接に関わり合っており、この特性を理解する力を養うことが重要である。体・運動・健康に関する科目やカウンセリングやコミュニケーション技法の学修を通じて、生徒の心身の状態を多角的に把握し、適切な支援ができる能力を育成する。本学科で学ぶ支援の目的は、生徒の課題を一方向的に解決することではなく、生徒自身が自ら課題に取り組み、解決する力を発揮できるよう支援することにある。こうした理解の獲得は、現代の学校現場が求める保健体育教員の資質に直結している。

3. 生涯にわたる健康習慣形成支援力の養成

本学科は、個人のライフステージに応じた心身の健康支援に関する教育研究を重視している。これらを教員養成に活かし、卒業後も生徒が自律的に運動や健康を管理できる力を育む指導力を養成する。単発的な運動指導にとどまらず、「運動実技」「スポーツ心理学」や心理学の学びを活用し、運動の楽しさや価値を生徒が内面化できるような動機づけができる教員を育成する。このような教員は、学習指導要領の目標を達成するだけでなく、地域社会の健康増進にも寄与できる人材となる。

これらの教員養成の目標を達成するために、スポーツ健康科学コースを置き、その教育課程を体系的に編成している。当該コースの前身であるスポーツ健康心理コースは、令和6年度に、高等学校までにスポーツ経験を有する学生を主な対象として設置された。それまでの本学 IR 室による人材ニーズ調査で繰り返し確認されてきたように、現代の企業等が求めるのは、単なる専門知識にとどまらず、心身のレジリエンスを備えた「健康の促進者」である。こうした社会的要請に応えるため、保健体育に関わる学問分野を学科の主要な教育研究分野として明確に位置付け、心と体の科学的理解を統合しようとする教育理念を具現化しようとするものであった。これをスポーツ健康科学コースに改称した上で、保健体育の教員養成は、当該コースに限定して行うこととし、その教育課程を次の通り展開している。

学科基礎科目に「心身両面」を念頭に、「心理学概論」「心理学実験」と「スポーツ科学実験実習」「運動実技Ⅰ（健康運動指導）」「運動実技Ⅱ（体力測定と健康支援）」を配置し、両者を橋渡す「スポーツ心理学」を含めて、いずれも必修科目としている。低学年でのこれらの基礎的学習を通じ、体験・測定・科学的理解という学びのプロセスをまず身につけることを卒業要件として担保している。

学科共通科目では「心理学系」「スポーツ科学系」「健康科学系」「健康福祉系」の4領域を設置し、各領域からバランスよく学べるようにしている。特にスポーツ科学系には、講義科目群と実技・演習科目群からそれぞれ8単位以上を卒業要件として指定し、心理学の知識と並行して、保健体育教員に必要な素養を理論と実技の両面から身に付ける基盤を提供している。

さらに、高学年に配当するコース専門科目には「教科に関する専門的事項に関する科目」以外に、「野外レクリエーション実習」「スポーツ指導実践」「動作分析」など、より専門性を高める科目を配置している。

また、保健体育教員免許状取得希望者は、スポーツ健康科学コースへの所属を必須とし、教職エントリー制度と連動させることで、教員養成に必要な科目を確実に履修させる仕組みを整えている。スポーツ健康科学コースの卒業要件科目には、保健体育免許状に関連する科目が相当程度含まれており、教職センターは、1年次前期末に行われる教職エントリー制度への登録時に、当該コースへの所属とコース教員による卒業論文指導を前提とした上で、教員免許状取得のための科目の計画的な履修を指導し、その履修状況を厳格にチェックし、管理している。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【人間関係学部心理臨床学科：中学校教諭一種免許状(保健体育)の設置趣旨】

学校現場では、養護教諭と保健体育教員が連携して生徒の健康安全に関する業務に当たることが多い。本学科では、これまで心理学を学んだ数多く養護教諭を養成し、心の理解に基づく健康支援において学校現場から高い評価を得てきた。この経験と実績を踏まえ、心理学的知見をスポーツ科学・健康科学と融合させ、生徒の心身を総合的に理解し、健やかな成長を支援できる保健体育教員を育成することを目指す。

鹿児島県教育振興基本計画（令和6年2月）が「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」を掲げる背景には、地域固有の喫緊の教育課題が存在する。例えば、スポーツ庁の調査（令和6年）によれば、本県中学生の体力合計点は全国平均に満たない状況が継続しており、運動習慣の二極化傾向が顕著である。また、文部科学省の調査（令和5年）では、中学校における不登校生徒数が全国平均を上回るなど、子どもたちが心と体の両面で支援を必要としている。本学科に保健体育教員養成課程を設置することは、これらの課題に応える「心と体の健康支援」を一体的に担える人材の育成に直結するものである。

本学科の教育課程は、保健体育の専門性に心理学の知見を融合することで、生徒の心身の状況を多角的に理解し、単なる技能や知識の指導にとどまらず、生徒の内発的動機づけを高めて主体的な運動習慣の形成を支援することを可能にする。これにより、中学校学習指導要領が重視する「運動の楽しさや喜びを味わい、仲間との交流を深める」ことや、「自ら課題を発見し、解決に取り組む実践力」の育成に効果的に資する。さらに、このような教育課程の設計は、鹿児島県教育振興基本計画が掲げる「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」とも軌を一にするものである。

以上のように、本学科の教育課程は、心理学・スポーツ科学・健康科学を結び付ける学びの体系に基づき、心と体の両面から生徒の成長を支援できる保健体育教員を養成する。これは、生徒の心身の成長を包括的に支援できる新たな教員像を具体的に示すものであり、地域社会の教育的要請に応える取り組みである。従って、本学人間関係学部心理臨床学科に中学校教諭一種免許状（保健体育）の教職課程を設置することは、学習指導要領の目標と整合し、教育現場及び地域に大きく寄与する意義を有する。

【人間関係学部心理臨床学科：高等学校教諭一種免許状(保健体育)の設置趣旨】

高等学校においても、養護教諭と保健体育教員の密な連携は不可欠である。本学科では、これまで心理学の専門的知見を有する養護教諭を養成し、学校現場から高い評価と信頼を得てきた。この実績を活かし、心と体を一体として捉え、多角的に生徒の健康支援ができる保健体育教員の養成を目指す。

文部科学省（令和5年）の調査によれば、本県高等学校における不登校生徒数は全国平均を上回り、生徒が心の健康に関する問題を抱えている状況が顕著である。さらに、生徒や保護者に対する心の支援体制（令和5年）は、スクールカウンセラーの配置状況が全国平均を大きく下回り、不登校の主たる理由である、生徒からの「不安や抑うつ」の相談に応じられないばかりか、学校としても「保護者に対する相談や支援」の体制も十分とは言えない状況である。

また高等学校学習指導要領では、精神疾患は若い世代に発症しやすいにも関わらず、正しい知識を学ぶ機会がなかったことを背景に、「精神疾患の予防と回復の内容」が示され、心と体の発達の状態を踏まえて、特に心の健康と運動との密接な関連を経験的に理解しながら「精神疾患の予防と回復」につながるよう指導することの必要性が強調されている。

現代の高等学校教育における課題は、不登校や精神疾患、生活習慣病、薬物乱用など多岐にわたるが、いずれも心と体が密接に関連しており、どちらか一方の視点からのみでは十分に対応できない。本学科では、心理学・スポーツ科学・健康科学を相互に関連づける教育課程を編成し、心身両面から生徒の成長支援が可能な保健体育教員を養成する。

技能の修得や運動能力の向上のみに力点が置かれた体育教育を受けた生徒は、運動を「やらされ

るもの」と感じ、卒業後に運動から遠ざかる可能性がある。これに対し、指導する教員が生徒一人ひとりの心身の課題（運動への苦手意識や対人関係の不安など）や性格・感情を深く理解し、成功体験を積ませて内発的動機づけを引き出せば、生徒は主体的に運動に取り組み、楽しさや喜びを実感できる。このようなアプローチは、単なる体力向上に留まらず、生涯にわたって運動を継続する習慣や心の安定、自己肯定感の向上にもつながる。

また心理学的知見を持つ保健体育教員は、生徒の心理状態を理解し、運動がストレス軽減や自己肯定感の向上に及ぼす効果を指導できる。例えば、不安を抱える生徒に運動を促し、それが心の安定につながることを経験的に理解させる指導や、薬物乱用や摂食障害といった社会的課題についても、背景にある心理的要因を踏まえた指導や専門機関との適切な連携が可能となる。

こうした指導は、保健体育の専門性と心理学的知見の融合により可能となり、また高等学校学習指導要領が重視する「精神疾患の予防と回復」「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」「社会の健康課題への対応」と整合し、地域社会が直面する教育課題にも資するものである。

このように、本学科の教育課程は、心理学・スポーツ科学・健康科学の知識と技能を備え、高等学校の生徒に心身両面からアプローチできる保健体育教諭の養成を可能にする。これは、まさに現代社会が求める保健体育教員像であり、また学習指導要領の目標及び内容と整合する。従って、本学人間関係学部心理臨床学科は、高等学校教諭一種免許状（保健体育）の教職課程を置く意義を有すると考える。

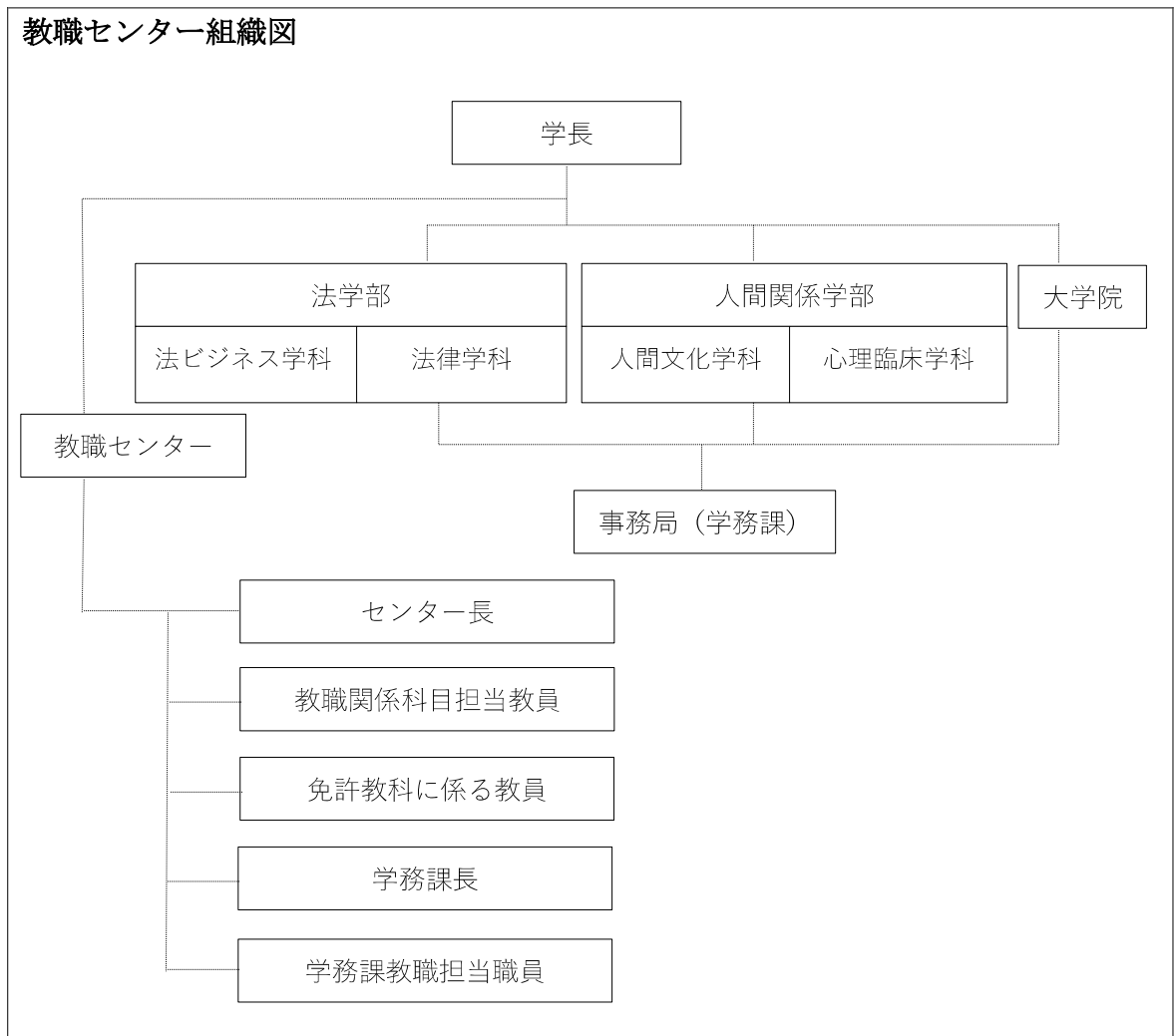
様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職センター運営会議
目的：	本学の教職センターは、本学の「建学の精神」と「教員養成に対する理念」に基づき社会的に有用な教員を育成するために、各学部・各学科のカリキュラムポリシーに則って教員養成の充実を図ることを目的とする。
責任者：	教職センター長 新納 雅樹（法学部教授）
構成員（役職・人数）：	教授4名、准教授4名、講師1名 学務課長1名、学務課教職担当職員1名 ※構成員は、本学の2学部4学科（人間関係学部：心理臨床学科・人間文化学科、法学部：法律学科・法ビジネス学科）の全学科から選出された9名の委員と学務課長・学務課教職担当職員から成る。
運営方法：	「教職センター運営会議」は年間8回程度開催。主に「教職オリエンテーション（各学年別）」「介護等体験」「教育実習」「観察実習」「養護実習」「臨床看護実習」「学習支援ボランティア」「学校インターンシップ」「教職課程エントリー者の履修状況」「教育実習・養護実習参加資格審査」等、教職指導全般について協議運営している。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

- | |
|---|
| <p>①「教職オリエンテーション」において、教職を目指す3・4年生を対象に、県教育庁教職員課主幹に講話（「県が求める教師像」等）をお願いし、学生が教職を目指すことへの自覚や意欲向上に取り組んでいる。</p> <p>②「教職実践演習」において、学校現場で教鞭を執っている教諭（本学の卒業生）を講師として招聘し、学校現場の実際や様々な課題等についての講話や質疑応答を通して、教職への理解と心構えを養成する取り組みを行っている。</p> |
|---|

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	「学習支援ボランティア」
連携先との調整方法：	担当教員が、定期的に小・中学校を訪問し、学校長と連絡を取りながら本学学生の小・中学校での学習支援ボランティアの活動状況等を把握するとともに、学校長と適宜情報交換等を行い、学生がスムーズに学習支援ボランティアを行えるように連絡調整・協議を行っている。
具体的な内容：	<ul style="list-style-type: none"> ・対象学生 本学が規定する「教職課程エントリー制度（養教一種免、中一種免：保体・国語・英語・社会、高一種免：保体・国語・英語・地歴・公民）」登録の学生。 ・活動内容 基本的には、小・中学校側が必要としている活動を行っている。主な活動内容としては、教科の学習活動支援、プリントの印刷作業支援、給食時の支援、花壇の花植作業、図書の除籍作業、朝のあいさつ運動参加、特別に支援が必要な生徒への支援等である。 また、これらの学習支援ボランティア活動を通して、生徒の発達の観察や健康観察、給食時の衛生指導や支援等も行っている。 なお、学習支援ボランティアは学校インターンシップの履修条件となっている。

Ⅲ. 教職指導の状況

<p>本学では、「教職センター運営委員」（上掲Ⅰ. (1) で示した9名の教員）が中心となり、主に下記事項について、各学年別に教職指導を行っている。</p> <p>①「教職エントリー制度」による教職へ向けた意識づけと責任ある行動への指導。</p> <p>②「教職オリエンテーション（学年別）」や「教職課程の手引き」を用いた、教員に求められる資質能力修得の指導。</p> <p>③「教職 ePF システム（履修カルテ）」による確かな専門的知識と自己教育力の修得指導。</p> <p>④「学習支援ボランティア」や「学校インターンシップ」、また、本学園の設置校である「志學館中・高等部」における授業観察による実践的指導力の育成指導。</p> <p>上記①～④の教職指導を通して、3年生での「介護等体験」、4年生での「教育実習」に結びつける教職指導を行っている。</p>

様式第7号ウ

＜心理臨床学科＞(認定課程:中一種免(保健体育))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	日本国憲法、外国語コミュニケーション、情報機器の操作に関する基礎科目を通して、教員に必要な基礎知識を学ぶ(「日本国憲法」「英語Ⅰ」「情報技術演習」等)。また、保健体育の基礎的理解となる運動時の人体の構造と機能の変化を理解する。加えて健康管理や体力の維持向上に効果的な運動についても理解を深める(「運動生理学」)。
	後期	運動時の身体的理解について、人体の構造・機能・栄養と健康や病気との関わりを理解する(「人体の構造と機能及び疾病」)。さらに、運動時の心理学的な影響についてやトレーニングに関する基礎知識及び対象、目的に応じたトレーニング方法について理解する(「スポーツ心理学」「運動方法学」等)。
2年次	前期	各種運動の特性に応じた技能及び健康・安全について理解するとともに運動の基本的技能(陸上・水泳)や個々の健康状態に応じた運動指導法を身につけながら、スポーツ科学的な要素を実験・データ分析を通じて学び、社会におけるスポーツの意義について理解する(「体育実技Ⅰ」「スポーツ社会学」「スポーツ科学実験実習」等)。さらに、保健体育教諭(教員)に求められる教職の意義や理念、生徒の主体的な学習活動を支える指導の基礎的知識について理解し、教育の基礎的な学習指導理論を身につける(「教職概論」「教育原理」「教育・学校心理学」「発達心理学」「保健体育科教育法Ⅰ」等)。
	後期	各種運動の特性に応じた技能及び健康・安全について理解するとともに運動の基本的技能(ダンス・体づくり運動・器械運動)や基本的な救急処置の方法を身につける。(「体育実技Ⅱ」「救急処置Ⅰ」等)。さらに、健康に生活するための基礎知識と学校教育と関連する教育行政、生徒指導、進路指導について理解し、教育の実践的指導法を身につける(「衛生学」「教育行政概論」「生徒指導の理論と方法」「進路指導の理論と方法」「保健体育科教育法Ⅱ」等)。
3年次	前期	各種運動、特に武道の特性や技能(剣道)について理解し、運動を通して日本の伝統文化について理解を深めながら、生涯を通してスポーツに親しむことやより高いパフォーマンスを目指すために必要な練習・トレーニングと指導に関する知識を力学的要素も踏まえながら身につける(「体育実技Ⅲ」「スポーツパフォーマンス学」「バイオメカニクス」)。また、公衆衛生や教育相談における学びを通して、生徒の心理的・精神的ケアやストレス対処法、特別な支援を要する生徒への対応を理解し、心身の現代的健康課題に対応できるような保健教育(保健分野)の実践的指導法を理解し身につける。加えて、個人生活における健康な生活と疾病予防、傷害の防止についての理解を深める。(「公衆衛生学」「学校臨床と教育相談」「特別支援教育概論」「保健体育科教育法Ⅲ」等)。
	後期	各種運動、特にチームプレーにおける特性や技能(バレーボール)について理解し、運動を通して他者理解や相互理解を深め、スポーツに関する団体や企業等の経営や運営に関わる知識を習得する(「体育実技Ⅳ」「スポーツマネジメント」)。また、応急手当の基本的知識と技能を実践的に身に付け、精神保健や健康管理についての知識、ICT等の情報機器及び教材の活用に必要な知識・技能、学校教育の特別活動における理解を深め、多様な生徒の実態や特性に対応できる保健教育(保健分野)の実践的指導法を理解し身につける。加えて、性に関する健康や健康を支える環境についての理解を深める(「精神保健Ⅰ」「救急処置Ⅱ」「特別活動論」「教育の方法と技術」「保健体育科教育法Ⅳ」等)。
4年次	前期	教育実習により学校教育や教師に求められる資質・能力について理解を深めるとともに、保健体育教諭(教員)として必要な体育分野と保健分野の実践的指導力を身につける。さらに、生涯にわたって運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営むことができる教育的指導力を身につける(「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」)。
	後期	教育実習について振り返り、保健体育教諭(教員)として必要な知識・技能について確認する。また、1年次から学んできたことに基づき、学科における学修の集大成として卒業研究を論文としてまとめる(「教職実践演習(中・高)」「卒業研究Ⅲ(スポーツ科学卒業論文)」)。

様式第7号ウ（教諭）

＜心理臨床学科＞（認定課程：中一種免（保健体育））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		運動生理学		日本国憲法	運動実技演習Ⅰ(ダンス)
					スポーツ&エクササイズ	運動実技演習Ⅱ(球技)
					英語Ⅰ(他:外国語Ⅰ)	ウエイトトレーニング実践
					情報技術演習	
					スポーツと現代社会	
	後期		スポーツ心理学		英語Ⅱ(他:外国語Ⅱ)	栄養学
			学校保健Ⅱ		憲法Ⅱ	解剖生理学Ⅰ
			人体の構造と機能及び疾病			
		運動方法学				
2年次	前期	教職概論	体育実技Ⅰ			スポーツ学概論
		教育原理	スポーツ社会学			スポーツ科学実験実習
		発達心理学				運動実技Ⅰ(健康運動指導)
		教育・学校心理学				スポーツ栄養学
		教育課程論				生涯スポーツ指導法
		道徳教育の指導法Ⅰ				武道教育論
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法				
	保健体育科教育法Ⅰ					
	後期	教育行政概論				運動実技Ⅱ(体力測定と健康支援)
		生徒指導の理論と方法	体育実技Ⅱ			スポーツと医学
		進路指導の理論と方法	衛生学			障がい者スポーツ
		保健体育科教育法Ⅱ	救急処置Ⅰ			スポーツ運動学
		道徳教育の指導法Ⅱ				

3年次	前期	学校臨床と教育相談	体育実技Ⅲ	学校インターンシップA		野外レクリエーション実習
		特別支援教育概論	公衆衛生学	学校インターンシップB		精神疾患とその治療Ⅰ
		保健体育科教育法Ⅲ				スポーツパフォーマンス学
						バイオメカニクス
	後期	特別活動論	体育実技Ⅳ			健康管理概論
		総合的な学習の時間の指導法	救急処置Ⅱ			スポーツマネジメント
		保健体育科教育法Ⅳ	精神保健Ⅰ			コーチング学
		教育の方法と技術				レクリエーションの指導法
		教育実習Ⅰ				卒業研究Ⅰ(スポーツ科学)
4年次	前期	教育実習Ⅱ				スポーツ指導実践Ⅰ
		教育実習Ⅲ				動作分析
						生涯スポーツ実践Ⅰ
						卒業研究Ⅱ(スポーツ科学)
	後期	教職実践演習(中・高)				スポーツ指導実践Ⅱ
						生涯スポーツ実践Ⅱ
						卒業研究Ⅲ(スポーツ科学卒業論文)

様式第7号ウ

＜心理臨床学科＞（認定課程：高一種免（保健体育））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	日本国憲法、外国語コミュニケーション、情報機器の操作に関する基礎科目を通して、教員に必要な基礎知識を学ぶ（「日本国憲法」「英語Ⅰ」「情報技術演習」等）。また、保健体育の基礎的理解となる運動時の人体の構造と機能の変化を理解する。加えて健康管理や体力の維持向上に効果的な運動についても理解を深める（「運動生理学」）。
	後期	運動時の身体的理解について、人体の構造・機能・栄養と健康や病気との関わりを理解する（「人体の構造と機能及び疾病」）。さらに、運動時の心理学的な影響についてやトレーニングに関する基礎知識及び対象、目的に応じたトレーニング方法について理解する（「スポーツ心理学」「運動方法学」等）。
2年次	前期	各種運動の特性に応じた技能及び健康・安全について理解するとともに運動の基本的技能（陸上・水泳）や個々の健康状態に応じた運動指導法を身につけながら、スポーツ科学的な要素を実験・データ分析を通じて学び、社会におけるスポーツの意義について理解する（「体育実技Ⅰ」「スポーツ社会学」「スポーツ科学実験実習」等）。さらに、保健体育教諭（教員）に求められる教職の意義や理念、生徒の主体的な学習活動を支える指導の基礎的知識について理解し、教育の基礎的な学習指導理論を身につける（「教職概論」「教育原理」「教育・学校心理学」「発達心理学」「保健体育科教育法Ⅰ」等）。
	後期	各種運動の特性に応じた技能及び健康・安全について理解するとともに運動の基本的技能（ダンス・体づくり運動・器械運動）や基本的な救急処置の方法を身につける。（「体育実技Ⅱ」「救急処置Ⅰ」等）。さらに、健康に生活するための基礎知識と学校教育と関連する教育行政、生徒指導、進路指導について理解し、教育の実践的指導法を身につける（「衛生学」「教育行政概論」「生徒指導の理論と方法」「進路指導の理論と方法」「保健体育科教育法Ⅱ」等）。
3年次	前期	各種運動、特に武道の特性や技能（剣道）について理解し、運動を通して日本の伝統文化について理解を深めながら、生涯を通してスポーツに親しむことやより高いパフォーマンスを目指すために必要な練習・トレーニングと指導に関する知識を力学的要素も踏まえながら身につける（「体育実技Ⅲ」「スポーツパフォーマンス学」「バイオメカニクス」）。また、公衆衛生や教育相談における学びを通して、生徒の心理的・精神的ケアやストレス対処法、特別な支援を要する生徒への対応を理解し、心身の現代的健康課題に対応できるような保健教育（保健分野）の実践的指導法を理解し身につける。加えて、現代の感染症とその予防、生活習慣病などの予防と回復について理解を深める。（「公衆衛生学」「学校臨床と教育相談」「特別支援教育概論」「保健体育科教育法Ⅲ」等）。
	後期	各種運動、特にチームプレーにおける特性や技能（バレーボール）について理解し、運動を通して他者理解や相互理解を深め、スポーツに関する団体や企業等の経営や運営に関わる知識を習得する（「体育実技Ⅳ」「スポーツマネジメント」）。また、応急手当の基本的知識と技能を実践的に身に付け、精神保健や健康管理についての知識、ICT等の情報機器及び教材の活用に必要な知識・技能、学校教育の特別活動における理解を深め、多様な生徒の実態や特性に対応できる保健教育（保健分野）の実践的指導法を理解し身につける。加えて、依存行動の予防、精神疾患の予防と回復についての理解を深める。（「精神保健Ⅰ」「救急処置Ⅱ」「特別活動論」「教育の方法と技術」「保健体育科教育法Ⅳ」等）。
4年次	前期	教育実習により学校教育や教師に求められる資質・能力について理解を深めるとともに、保健体育教諭（教員）として必要な体育分野と保健分野の実践的指導力を身につける。さらに、生涯にわたって運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営むことができる教育的指導力を身につける（「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」）。
	後期	教育実習について振り返り、保健体育教諭（教員）として必要な知識・技能について確認する。また、1年次から学んできたことに基づき、学科における学修の集大成として卒業研究を論文としてまとめる（「教職実践演習（中・高）」「卒業研究Ⅲ（スポーツ科学卒業論文）」）。

様式第7号ウ（教諭）

＜心理臨床学科＞（認定課程：高一種免（保健体育））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期		運動生理学		日本国憲法	運動実技演習Ⅰ(ダンス)	
					スポーツ&エクササイズ	運動実技演習Ⅱ(球技)	
					英語Ⅰ(他:外国語Ⅰ)	ウエイトトレーニング実践	
					情報技術演習		
					スポーツと現代社会		
	後期			スポーツ心理学		英語Ⅱ(他:外国語Ⅱ)	栄養学
				学校保健Ⅱ		憲法Ⅱ	解剖生理学Ⅰ
				人体の構造と機能及び疾病			
			運動方法学				
2年次	前期	教職概論	体育実技Ⅰ			スポーツ学概論	
		教育原理	スポーツ社会学			スポーツ科学実験実習	
		発達心理学				運動実技Ⅰ(健康運動指導)	
		教育・学校心理学				スポーツ栄養学	
		教育課程論				生涯スポーツ指導法	
		道徳教育の指導法Ⅰ				武道教育論	
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
	保健体育科教育法Ⅰ						
	後期	教育行政概論				運動実技Ⅱ(体力測定と健康支援)	
		生徒指導の理論と方法	体育実技Ⅱ			スポーツと医学	
		進路指導の理論と方法	衛生学			障がい者スポーツ	
		保健体育科教育法Ⅱ	救急処置Ⅰ			スポーツ運動学	
道徳教育の指導法Ⅱ							

3年次	前期	学校臨床と教育相談	体育実技Ⅲ	学校インターンシップA		野外レクリエーション実習
		特別支援教育概論	公衆衛生学	学校インターンシップB		精神疾患とその治療Ⅰ
		保健体育科教育法Ⅲ				スポーツパフォーマンス学
						バイオメカニクス
	後期	特別活動論	体育実技Ⅳ			健康管理概論
		総合的な学習の時間の指導法	救急処置Ⅱ			スポーツマネジメント
		保健体育科教育法Ⅳ	精神保健Ⅰ			コーチング学
		教育の方法と技術				レクリエーションの指導法
		教育実習Ⅰ				卒業研究Ⅰ(スポーツ科学)
4年次	前期	教育実習Ⅱ				スポーツ指導実践Ⅰ
		教育実習Ⅲ				動作分析
						生涯スポーツ実践Ⅰ
						卒業研究Ⅱ(スポーツ科学)
	後期	教職実践演習(中・高)				スポーツ指導実践Ⅱ
						生涯スポーツ実践Ⅱ
						卒業研究Ⅲ(スポーツ科学卒業論文)